

サイエンスアゴラ 2019 に出展しました

応用化学科サイエンスアラカルトエコールプロジェクトの学生メンバー（19名）、そして3名の応用化学科教員が引率者として、JST（科学技術振興機構）主催のサイエンスアゴラにプログラム出展を、11月16日(土)、17日(日)の二日間、東京・お台場テレコムセンターを会場に行いました。<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>

サイエンスアゴラは、子供向けの理科実験、トップ科学者との対話、市民参加の科学議論など、誰もが参加でき、科学と社会の関係をつくるイベントです。今年度のテーマは「ヒューマン」でした。ヒューマンと小学生向け理科実験とをどのように繋げていくかをプロジェクトメンバーは考えました。

サイエンスアゴラへの出展には全国から多数の応募があり、厳正な書類審査を経た後、「化学のパワーで一気に風船をふくらまそう！」のテーマが選ばれました。今年で6年連続のサイエンスアゴラへの参加となりました。二酸化炭素はガソリンやメタンガスなど化石燃料の燃焼により発生し、地球温暖化を引き起こす温室ガスとして知られています。今回の実験では、燃焼ではなく、クエン酸と重曹との化学反応により、二酸化炭素を発生させました。実際に小学生たちには、この化学反応で風船が一気に膨らむ現象、吸熱反応が起こること、発生した二酸化炭素の性質（水によく溶け、石灰水を白く濁らすこと、BTB溶液の変色、空気よりも比重が大きいことなど）を体験してもらいました。小学生は親御さんと一緒になって、一瞬に風船が膨らむ様子に驚かれ、また、BTB溶液に二酸化炭素を吹き込んだ時の色の変化に興味を示して頂きました。150組以上の方々がブースに足を運んで頂き、プロジェクトが大盛況で終わったことをプロジェクトメンバー、そして参加した教員一同、大変満足しています。

このプロジェクトは、学生それぞれの個性を発揮しながら、学年の枠を超え、自らが考え、協力し合うことで成し遂げられたものです。この経験を次年度のメンバーに引き継いでもらい、次年度も更に学生プロジェクトが深化することを期待します。



プログラム運営する学生メンバーたち



学生メンバーで集合写真